

# オランダ

2022年10月5日

海外調査部・アムステルダム事務所

2021年の貿易は、輸出が前年比21.5%増、輸入が24.3%増となり、ともに大幅に拡大した。貿易黒字は過去最大となった。外国直接投資は、対内、対外ともに前年に引き続き低調で引き上げ超過となったが、対内ではライフサイエンス分野での拠点設立やデータセンター、光海底ケーブルへの投資が目立った。対日貿易は輸出が10.5%減で振るわなかったが、輸入はほぼ全ての品目で前年から増加して7.2%増となった。日本企業による投資はR&D拠点や配送センターの開設がみられた。

## ■輸出入ともに大幅増、貿易黒字は過去最大

2021年の貿易は、輸出が前年比21.5%増の5,866億4,200万ユーロ、輸入が24.3%増の5,267億8,100万ユーロとなり、前年の減少からともに大きく回復した。貿易黒字は過去最大の598億6,100万ユーロとなった。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、停滞していた欧州各国の生産活動が回復に向かったことがその背景にある。輸出の44.3%を占める再輸出は18.8%増の2,597億4,300万ユーロ、55.7%を占めるオランダ原産品の輸出額は23.8%増の3,268億9,900万ユーロとなった。再輸出の割合が高かった品目は、雑製品が65.9%、次いで機械類・輸送用機器が52.6%であった。再輸出の割合を地域別にみると、EU向けが52.3%と5割を超え、中でもチェコが63.2%で一番割合が高かった。EU域外ではオセアニアが36.8%で最大だったが、その他の地域では米州の28.1%、アジアの25.0%などいずれも3割未満となった。

輸出を品目別（総額ベース）にみると、最大の輸出品目である機械類・輸送用機器（構成比28.4%）が前年比13.2%増と前年の3.6%減から回復した。特に電気機械・機器その他（6.2%）の19.6%増、特定産業用特殊機械類（5.1%）の22.0%増が好調だった。次に輸出額が大きい化学製品（18.8%）も、有機化学品（3.7%）の47.6%増、プラスチック（3.0%）の41.1%増が牽引し、全体で24.3%増と大幅に増加

した。そのほか、鉱物性燃料・潤滑油・その他（12.3%）も原油や天然ガスの価格高騰を受けて61.9%増となり、輸出額全体を押し上げた。

輸出を国・地域別

表1 オランダの主要品目別輸出入（再輸出を含む総額ベース）

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2020年		2021年		2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械類・輸送用機器	147,396	166,836	28.4	13.2	143,847	160,950	30.6	11.9
化学製品	88,891	110,531	18.8	24.3	59,487	76,064	14.4	27.9
雑製品	61,498	73,000	12.4	18.7	60,647	72,730	13.8	19.9
鉱物性燃料・潤滑油・その他	44,420	71,910	12.3	61.9	48,072	83,756	15.9	74.2
食料品・動物	66,230	71,068	12.1	7.3	43,241	46,648	8.9	7.9
工業製品（原料別製品）	39,297	50,509	8.6	28.5	41,992	54,305	10.3	29.3
非食品原材料	22,754	29,123	5.0	28.0	15,958	20,069	3.8	25.8
飲料・たばこ	5,799	6,408	1.1	10.5	4,209	4,554	0.9	8.2
動植物性油脂	4,160	5,243	0.9	26.0	5,706	7,121	1.4	24.8
合計（その他含む）	482,713	586,642	100.0	21.5	423,823	526,781	100.0	24.3

[注] EU域外貿易は通関ベース、EU域内貿易は各企業のインボイス報告に基づく。2021年は暫定値。  
[出所] オランダ中央統計局 (CBS)

にみると、全体の65.3%を占めるEUは前年比25.4%増となった。最大の輸出先であるドイツ（構成比22.7%）は24.9%増と大幅に拡大した。最も寄与したのは鉱物性燃料・潤滑油・その他（15.6%）の80.0%増だが、最大品目である機械類・輸送用機器（21.8%）の13.1%増、化学製品（17.0%）の25.0%増、急激な値上がりとなった鉄鋼や非鉄金属を含む工業製品（原料別製品）（11.3%）の32.7%増など、ほぼ全ての品目で拡大した。そのほか、ベルギー（10.7%）の27.2%増、フランス（8.1%）の27.5%増など、EU加盟国は軒並み大幅増となった。

EU域外では、英国（6.5%）が前年の12.2%減から8.8%増と増加に転じた。鉱物性燃料・潤滑油・その他（9.6%）が73.0%増と拡大した。英国は2020年1月31日にEUを離脱したが、2020年末まで移行期間だったため、2021年がその影響を受けた最初の年と考えることができる。離脱前の2019年の対英輸出額と比較すると輸出額は4.5%減だった。このうちオランダ原産品は20.4%増と増加したのに対して、再輸出は31.3%減となった。オランダ中央統計局は、従来アジアなどEU域外からオランダを経由して英国に再輸出されていた通過貿易の流れが、英国のEU離脱によって英国に直接輸出する流れができたと分析している。米国（構成比4.8%）が前年比15.9%増と前年の8.8%減から回復した。英国同様、鉱物性燃料・潤滑油・その他（14.7%）が87.7%増と大幅な伸びを示した。アジア大洋州（9.0%）は14.1%増と好調だった。前年に大幅に伸びた中国（2.4%）は多くの品目で落ち込み、特に食料品・動物（18.7%）が16.1%減となった影響が大きく、全体で0.4%減となった。一方、台湾（1.7%）、韓国（1.5%）はそれぞれ51.6%増、32.3%増と好調だった。

輸入を品目別にみると、最大の輸入品目である機械類・輸送用機器（構成比30.6%）は前年比11.9%増と伸長した。そのうち、電気機械・機器その他（7.7%）の18.4%増が牽引した。次に輸入額が大きい鉱物性燃料・潤滑油・その他（15.9%）は74.2%増で輸入額全体を押し上げた。同品目の最大の輸入元はロシアで93.9%増、次いでノルウェーが2.0倍とともに大幅に増加した。化学製品（14.4%）は有機化学

品（3.2%）が42.4%増と大幅に伸びたことにより27.9%増となった。

輸入を国・地域別にみると、全体の5割近くを占めるEU（構成比48.2%）が前年比21.5%増だった。最大の輸入元であるドイツ（17.4%）が22.6%増、続くベルギー（9.9%）も25.8%増となり、その他の

表2 オランダの主要国・地域別輸出入（再輸出を含む総額ベース）

（単位：100万ユーロ、%）

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2020年		2021年		2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
欧州	365,397	451,658	77.0	23.6	255,342	326,811	62.0	28.0
EU	305,393	382,929	65.3	25.4	208,773	253,731	48.2	21.5
ドイツ	106,798	133,399	22.7	24.9	74,875	91,787	17.4	22.6
ベルギー	49,436	62,859	10.7	27.2	41,457	52,173	9.9	25.8
フランス	37,171	47,410	8.1	27.5	14,904	18,730	3.6	25.7
イタリア	19,256	25,486	4.3	32.4	11,619	14,695	2.8	26.5
スペイン	14,439	18,464	3.1	27.9	8,421	10,700	2.0	27.1
ポーランド	14,195	18,424	3.1	29.8	8,986	10,973	2.1	22.1
英国	34,941	38,003	6.5	8.8	20,033	26,348	5.0	31.5
スイス	7,629	8,597	1.5	12.7	3,313	4,313	0.8	30.2
ロシア	6,037	6,605	1.1	9.4	9,474	18,276	3.5	92.9
ノルウェー	4,689	5,071	0.9	8.1	8,452	15,093	2.9	78.6
アジア大洋州	46,258	52,773	9.0	14.1	96,105	111,261	21.1	15.8
中国	14,118	14,057	2.4	△ 0.4	44,850	53,622	10.2	19.6
台湾	6,427	9,741	1.7	51.6	4,649	6,008	1.1	29.2
韓国	6,502	8,601	1.5	32.3	4,132	5,319	1.0	28.7
ASEAN	6,983	7,735	1.3	10.8	25,116	26,525	5.0	5.6
日本	4,776	4,275	0.7	△ 10.5	7,395	7,931	1.5	7.2
北米	29,645	34,448	5.9	16.2	38,109	44,007	8.4	15.5
米国	24,227	28,086	4.8	15.9	34,266	40,098	7.6	17.0
アフリカ	15,001	16,834	2.9	12.2	10,416	13,378	2.5	28.4
合計（その他含む）	482,713	586,642	100.0	21.5	423,823	526,781	100.0	24.3

〔注〕①EU域外貿易は通関ベース、EU域内貿易は各企業のインボイス報告に基づく。2021年は暫定値。

②アジア大洋州は、ASEAN + 6（日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド）に香港、台湾を加えた合計値。北米は米国、カナダ、メキシコの3カ国の合計値。

〔出所〕オランダ中央統計局（CBS）

EU加盟国からも軒並み増加した。EU域外では、ドイツに次いで輸入額が大きい中国（10.2%）が19.6%増だった。また、米国（7.6%）が17.0%増、英国（5.0%）が31.5%増と好調で、いずれも鉱物性燃料・潤滑油・その他がそれぞれ91.4%増、53.1%増と大幅に増加したことが寄与した。

2022年1～4月の貿易は、輸出が前年同期比20.1%増の2,172億7,800万ユーロ、輸入が25.9%増の1,989億4,300万ユーロだった。ロシアのウクライナ侵攻による原油や天然ガスの価格高騰を受けて、輸出入ともに鉱物性燃料・潤滑油・その他が大幅に増加した。輸出では96.3%増、輸入では2.1倍となった。

## ■直接投資は対内・対外ともに引き揚げ超過

オランダ国立銀行によると、2021年の対内直接投資額（国際収支ベース、ネット、フロー）は1,278億7,100万ユーロの引き揚げ超過となった。米国の579億8,400万ユーロの引き揚げ超過、オフショア金融センターによる584億1,200万ユーロの引き揚げ超過などが大きく影響した一方、EU全体では前年の602億3,900万ユーロの引き揚げ超過から39億3,600万ユーロのプラスに転じた。最大の投資国はアイルランドで188億2,500万ユーロ、次いでドイツが105億1,000万ユーロだった。

対内直接投資案件では、ライフサイエンス分野でオランダに拠点を設置する動きが目立った。米医薬品大手ブリistol・マイヤーズ スクイブが2021年4月、ライデン・バイオサイエンスパーク内に細胞療法施設を建設すると発表したほか、米国の核融合関連技術、装置の設計製造シャイン・テクノロジーズが5月にフローニンゲンに医療用アイソトープ生産施設を開設すると発表した。また近年、アムステルダム近郊が欧州のデータハブとして注目を集めている。通信大手ドイツテレコムは6月にデータセンターを開設、データセンター運営大手の米デジタル・リアリティ傘下のインターシオンは9月にデータセンターの拡張を完了させた。また、米国のデータセキュリティ・ソリューション会社フューチャックスは8月にデータセンターを新設すると発表した。さらに、データ通信量の増大を見越して、ベルギーのネットワークインテグレーターのアルカディズは8月にオランダとベルギーを結ぶ光ファイバーネットワークの開通を完了させた。米国の通信インフラ会社ザヨは7月にオランダと英国を結ぶ光ファイバー海底ケーブルを敷設すると発表している。M&A 案件では、ノルウェーの広告大手アデビントが6月に米電子商取引大手イーベイのクラシファイド広告事業部門を92億ドルで買収した。

表3 オランダの国・地域別対内・対外直接投資  
〈国際収支ベース、ネット、フロー〉

(単位：100万ユーロ)

	対内直接投資		対外直接投資	
	2020年	2021年	2020年	2021年
	金額	金額	金額	金額
欧州	△ 29,370	△ 27,064	△ 87,288	△ 24,782
EU	△ 60,239	3,936	△ 40,896	11,518
アイルランド	△ 44,235	18,825	△ 4,854	△ 26,462
ドイツ	7,235	10,510	14,938	3,930
イタリア	968	8,782	△ 5,268	12,033
スペイン	△ 6,475	1,092	△ 15,724	428
ハンガリー	3,268	△ 115	△ 7,419	△ 3,023
オーストリア	4,380	△ 2,803	841	△ 1,100
ルクセンブルク	△ 16,139	△ 9,789	△ 39,143	11,309
ベルギー	△ 2,995	△ 10,326	△ 565	△ 4,009
フランス	△ 5,850	△ 14,388	17,031	21,825
ノルウェー	△ 1,031	3,009	△ 412	839
スイス	△ 57,117	△ 11,623	△ 44,496	△ 19,352
英国	93,335	△ 12,310	△ 6,078	△ 3,286
カナダ	11,278	4,863	△ 9,832	274
日本	△ 851	1,050	△ 6,077	△ 4,246
インド	△ 340	469	1,500	△ 1,798
中国	530	△ 70	1,463	4,354
ブラジル	△ 5,269	△ 1,645	△ 406	△ 4,797
香港	14,872	△ 2,454	1,433	414
ロシア	6,438	△ 6,440	2,718	△ 11,496
米国	△ 61,041	△ 57,984	△ 24,702	15,964
オフショア金融センター	△ 36,460	△ 58,412	△ 14,631	4,806
合計（その他含む）	△ 133,259	△ 127,871	△ 169,776	△ 35,427

〔出所〕オランダ国立銀行（DNB）

表4 オランダの主な対内直接投資案件 (2021年)

<M&A 以外>						
業種	企業名	投資国	時期	投資額	概要	
医薬品	プリストル・マイヤーズ スタイブ	米国	2021年4月	非公表	ライデン・バイオサイエンスパーク内に欧州初の血液がん患者向けの細胞療法のための製造施設を建設すると発表。少なくとも500人の新規雇用を見込む。2024年末に稼働予定。	
通信	ドイツテレコム	ドイツ	2021年6月	非公表	アムステルダムに2つのデータセンターを開設したと発表。	
通信	ザヨ・グループ	米国	2021年7月	非公表	英国とオランダを結ぶ光ファイバー海底ケーブルを敷設すると発表。	
通信	アルカディズ	ベルギー	2021年8月	非公表	オランダとベルギーの主要都市を結ぶ400Gの光ファイバーネットワークを新設したと発表。	
穀物、食品材料	ブンゲ	米国	2021年11月	3億ユーロ	ブンゲ傘下の植物性油脂事業会社ブンゲ・ローターズ・クロックラールはアムステルダム港に生産施設を建設すると発表。2024年末までに完成予定。	
<M&A>						
被買収企業 (事業)		買収企業		時期	投資額	概要
業種	企業名	企業名	国籍			
電子商取引	イーベイのクラシファイド広告事業	アデビント	ノルウェー	2021年6月	92億ドル	広告大手アデビントは米電子商取引大手イーベイのクラシファイド広告(案内広告)事業(本社:オランダ)の買収を完了。
小売り	グラントビジョン	エシローレルックスオティカ	フランス	2021年7月	72億ユーロ	仏大手眼鏡メーカーのエシローレルックスオティカは眼鏡販売大手チェーンのグラントビジョンの株式76.72%を取得したと発表。
ヘルスケア	ロイヤルフィリップス	ヒルハウス・キャピタル	中国	2021年9月	44億ユーロ	フィリップスの家電事業撤退に伴い、中国の投資ファンドによる同事業の買収が完了。買収後15年間のフィリップス・ブランドの名称使用料(7億ユーロ)も含まれる。
素材	ロイヤルDSM	コバストロ	ドイツ	2021年4月	16億1,000万ユーロ	独ポリマー大手コバストロはロイヤルDSMのレジンス&ファンクショナルマテリアルズ(RFM)事業の買収を完了。

[出所] 各社発表および報道などから作成

表5 オランダの主な対外直接投資案件 (2021年~2022年5月)

<M&A 以外>							
業種	企業名	投資先国	時期	投資額	概要		
自動車	ステランティス	カナダ	2022年5月	28億ドル	カナダ・オンタリオ州の同社ウィンザー工場とブランプトン工場のEV生産への転換、EVとEV用電池技術に特化した研究開発センターの建設に28億ドルを投じると発表。		
半導体製造装置	ASM インターナショナル	シンガポール、フィンランド、米国、韓国	2021年9月	非公表	[Investor Day 2021]にて、シンガポール工場の拡張、フィンランド、米国、韓国拠点の強化を発表。		
エネルギー	ロイヤル・ダッチ・シェル	ドイツ	2021年1月	非公表	三菱重工業、スウェーデンのバッテンフォル、独ハンブルク熱供給公社と共同で、ハンブルク港に近接するモーアブルクでグリーン水素の製造・供給・利用に関するプロジェクトを実施すると発表。		
小売り	インカホールディング	インド	2021年2月	6億ユーロ	スウェーデンの家具大手イケアの親会社インカ・グループは、グループ傘下のインカ・センターズを通じて、ウッタル・プラデシュ州ノイダに商業施設を開発すると発表。		
小売り	インカホールディング	中国	2021年8月	5億6,500万ユーロ	グループ傘下のインカ・センターズを通じて、湖南省長沙市に複合施設を開業したと発表。		
<M&A>							
買収企業		被買収企業 (事業)			時期	投資額	概要
企業名	業種	企業名	国籍				
ジャストイート・テイクアウェイ・ドットコム	オンライン食品配送	グラブハブ	米国	2021年6月	73億ドル	オンライン食品デリバリー欧州大手ジャストイート・テイクアウェイ・ドットコムは米同業のグラブハブの買収・合併を完了。	
PTTGC インターナショナル	化学	オルネクス・ホールディング	ドイツ	2021年12月	非公表	国営タイ石油公社(PTT)系の石油化学大手PTTグローバルケミカル(PTTGC)は、オランダ子会社PTTGCインターナショナルを通じて、独特殊化学大手オルネクス・ホールディングの買収を完了。	
アルティス・ヨーロッパ	通信	ブリティッシュ・テレコム	英国	2021年6月、12月	非公表	通信大手アルティスは子会社のアルティスUKを通じて、ブリティッシュ・テレコムの株式18%の取得を完了。	
ノバ・リソーシズ	資源	KAZ ミネラルズ	英国	2021年6月	35億ドル	カザフスタン鉱山運営会社KAZ ミネラルズの非公開化を狙って同社の大株主2人は残りの株式約60%を取得したと発表。2人が間接的に保有する資源開発会社ノバ・リソーシズを通じて、買収が行われた。	
投資家グループ	電力	ストックホルム・エクセルギー	スウェーデン	2021年9月	295億クローネ	APG、アレクタ、PGGM、Keva、AXAの5社共同グループは、フィンランドの電力大手フォータムからストックホルムの電力会社ストックホルム・エクセルギーの株式50%の取得を完了。	

[出所] 各社発表および報道などから作成

オランダ国立銀行によると、2021年の対外直接投資額（国際収支ベース、ネット、フロー）は354億2,700万ユーロの引き揚げ超過となった。最も大きかったのはフランス向けに218億2,500万ユーロ、次いで米国の159億6,400万ユーロだった。

対外直接投資案件では、ウエハー処理用の半導体プロセス装置を開発・製造するASMインターナショナルが2021年9月、世界的な半導体需要増を理由にシンガポールでの生産施設の拡張とフィンランド、米国、韓国拠点の機能強化を発表した。M&A案件では、オンライン食品配送ジャストイート・テイクアウェイ・ドットコムが6月、米同業のクラブハブを73億ドルで買収・合併した。

## ■対日輸入増加、貿易赤字が拡大

2021年の対日輸出は前年比10.5%減の42億7,500万ユーロ、輸入は7.2%増の79億3,100万ユーロだった。対日輸出の67.4%を占めるオランダ原産品は4.7%増の28億8,000万ユーロ、32.6%を占める再輸出は31.1%減の13億9,500万ユーロとなった。貿易赤字は前年から10億3,700万ユーロ拡大し、36億5,600万ユーロとなった。

対日輸出を品目別にみると、最大の輸出品目である機械類・輸送用機器（構成比33.4%）が前年比25.6%減と不振だった。特に前年に大幅増となった通信・録音機器（2.2%）の81.4%減が響いた。次に輸出額が大きい雑製品（22.2%）は0.6%増にとどまった。そのほか、食料品・動物（13.6%）も3.8%減と低調だった。

対日輸入を品目別にみると、ほぼ全ての品目で前年から増加した。最大品目である機械類・輸送用機器（構成比60.0%）は前年比1.8%増だった。電気機械・機器その他（14.8%）が26.6%増、特定産業用特殊機械類（12.7%）

が23.6%増と大幅に伸びたが、事務用機器・計算機（10.7%）が31.3%減と落ち込んだことが響いた。また、化学製品（14.8%）は、その他化学物質・同製品（3.6%）が2.4倍と拡大し、28.4%増となった。

表6 オランダの対日主要品目別輸出入（再輸出を含む総額ベース）〈通関ベース〉  
(単位：100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2020年		2021年		2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械類・輸送用機器	1,919	1,427	33.4	△ 25.6	4,678	4,762	60.0	1.8
雑製品	943	949	22.2	0.6	1,227	1,313	16.6	7.0
化学製品	816	811	19.0	△ 0.6	914	1,174	14.8	28.4
食料品・動物	606	583	13.6	△ 3.8	63	87	1.1	38.1
工業製品(原料別製品)	250	233	5.5	△ 6.8	354	422	5.3	19.2
非食品原材料	153	182	4.3	19.0	85	106	1.3	24.7
飲料・たばこ	64	64	1.5	0.0	30	37	0.5	23.3
合計(その他含む)	4,776	4,275	100.0	△ 10.5	7,395	7,931	100.0	7.2

[注] 2021年は暫定値。  
[出所] オランダ中央統計局 (CBS)

オランダ国立銀行によると、2021年の日本からの直接投資受入額は10億5,000万ユーロ、日本への対外直接投資額は42億4,600万ユーロの引き揚げ超過となった。

日本企業による対内直接投資案件としては、研究開発 (R&D) に強みをもつオランダへのR&D拠点の開設が相次いだ。化学大手の帝人は2021年1月にアーネムに、食品素材の不二製油は9月にワーヘニンゲンに、光学機器のニコンは同じく9月にライデンに、積水化学工業は10月にヘルモンドにR&D拠点を開設した。また、オランダをEU向けの配送拠点として配送センターを設置、拡張する動きも前年に引き続き活発で、日本通運が3月にナイメーヘンに、光学機器のトプコンが12月にゾーテルメールに配送センターを開設した。さらに、産業機械のクボタは10月、ヴェールトに物流セ

ンターを移転・拡大すると発表している。日本企業によるM&A案件としては、X線分析機器のリガクによる8月のMIラプス（分子イメージング機器製造）の買収、産業用ドローンサービスのテラドローンによる12月のテラインスペクシオニアリング（非破壊検査用のドローン）の完全子会社化が挙げられる。このほか、丸紅が6月に欧州3位の香辛料メーカーであるユーロマへの出資、大阪ガスが11月に需給調整事業を行うジェドリックスへの出資を発表した。一方、オランダから日本への直接投資は低調で件数は少なかった。ヘルスケア大手ロイヤルフィリップスが4月に医療アプリを開発・提供するアルム、12月に疾患管理システムを開発・提供するインテグリティ・ヘルスケアに出資すると発表したほか、風力発電専門のBLIX コンサルタンシーが9月に東京事務所を開設した。

## 主要経済指標

	2019年	2020年	2021年
①人口：1,748万人（2021年）			
②面積：4万1,543km <sup>2</sup> （2021年）			
③1人当たりGDP：5万8,292米ドル（2021年）			
④実質GDP成長率（%）	2.0	△ 3.9	4.9
⑤消費者物価上昇率（%）	2.6	1.3	2.7
⑥失業率（%）	3.4	3.8	4.2
⑦貿易収支（100万ユーロ）	60,104	61,718	62,575
⑧経常収支（100万ユーロ）	73,141	56,864	77,415
⑨外貨準備高（グロス） （100万米ドル）	13,331	16,734	28,630
⑩対外債務残高（グロス） （100万ユーロ）	3,774,201	3,533,461	3,530,053
⑪為替レート（1米ドルにつき、 ユーロ、期中平均）	0.8933	0.8755	0.8455

〔注〕④：2021年は暫定値、⑥：15～75歳、⑦：国際収支ベース（財のみ）、⑦⑧：2020年と2021年は暫定値。  
〔出所〕①②④⑤⑥：オランダ中央統計局（CBS）、③⑨⑪：IMF、⑦⑧⑩：オランダ国立銀行（DNB）

（お問い合わせ先）

海外調査部 欧州ロシアCIS課

ORD@jetro.go.jp